



令和4年度の運動会『さいごまでがんばろう ゆうき ほんき運動会』も、いよいよ3日後となりました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で3年ぶりに全学年の競技を通して見ていただける運動会となります。子ども達も日に日に運動会への楽しみが増したり、本気度がアップしたりしてきました。友達と一緒に競技を行う嬉しさ、存分に体を動かす楽しさ、自分の力を精いっぱい発揮する心地よさを感じながら、どの子も笑顔いっぱい元気いっぱいで運動会に向かってほしいと願っています。

## 色別チームでたくさんのご経験をしています

運動会では恒例となっている色別チーム。今年度は、これまでのピンクチームやオレンジチームではなく、赤・青・黄の3色に各クラスが分かれ、異年齢のチームを作りました。26日にはおうちで自分の色のハチマキを帽子に縫い付けてもらい、それをかぶって大喜びの子ども達でした。3チームに分かれた時、年長児がチーム名を自分達で考えました。「赤だから火みたいなマグマはどう?」「それじゃあ、年少さんはわかりにくいよ」「そうか。じゃあ、ほのおは?」「青は波がいいんじゃない?」「もっと強そうに、おおなみチームにしようよ」「黄色は足の速い動物がいいな」「チーターは?」「いいね」・・・。たくさんのお考えを出し合って、『ほのおチーム』『おおなみチーム』『チーターチーム』に決まりました。そのチームで集まるのは、オープニングの後、開会式、玉入れの時です。年長児が「ほのおチーム集まって!」と言っても、最初はなかなか集まれません。何せ年少児はやっと自分がりんご組に所属していることが分かってきたばかりです。どこに行っているのかかわからない年少児や年中児に「こっちだよ」「おいで」と声をかけたり、手をつないだりする年長児の姿が頼もしく見えました。年少児にもわかりやすいネーミングを考えたり、「集まれ!」と呼ぶ年長児に対して「そんな風に言うと怖いよ。もっと優しい声がいいんじゃない?」と気持ちを察したり、どんな風に誘うとついてきてくれるかを考えたり・・・。年長児としての自覚が芽生える活動となっています。そして、年少・年中児は、旗を振る色長や、体操リーダーや、開会式・閉会式で上手に言葉を言ったりする年長児の姿を見て、きっと「かっこいいなあ」と憧れの気持ちをもつことでしょう。幼稚園では、色別に分かれて全園児で行う競技は少ないですが、このように異年齢でかかわりあいながら、たくさんのご経験を学んでいます。



## 年長児が稲刈りを行いました

田んぼの活動でお世話になっている地域の方から「そろそろ稲刈りができますよ」という連絡をいただき、22日(金)に年長児が稲刈りを行いました。春の田植えは残念ながら雨でできなかったため、田んぼの活動は初めてとなります。ピバの近くまで歩き、長袖シャツに着替えて、やる気満々の年長児でした。地域の方から稲刈りの仕方を教わり、早速稲刈りに挑戦です。稲を一束片手で持って、その下を鎌で刈ります。大人が見守ったり手伝ったりしながら一人ずつ慎重に刈っていきました。初めて鎌を持つ子ども達でしたが、教わった通り稲を刈り「ザクザクって音がしたよ」「なかなか切れなくて大変だった」「稲が刈れてうれしい」と、稲刈りの大変さや収穫の喜びなどを味わうことができました。その後、コンバインで一気に稲刈りをする様子を見学しました。「すごい、稲がどんどんなくなっていく」「コンバインで刈った稲はどうなるんだろう・・・」と気づきや不思議に思う気持ちを表しながら見ました。年長児が一生懸命刈った稲は、11月の収穫祭で美味しいご飯にしてみんなで食べたいと思います。



## 感謝の気持ちをもつということ

先日のお便りでもお知らせしましたが、保護者の方々の草取り週間や、運営協議会の皆さんによる草刈り・草取りのおかげで、園庭の草が随分きれいになりました。26日の全園児での体操の後、「おうちの人や運営協議会さんが草を取ってくださったから、こんなにきれいになったんだよ。夏にもおうちの人に草を取ってもらったんだよ」と子ども達に伝えると、「草がなくて、きれいで気持ちよかった」「本気で走れた」「きれいにしてもらって、うれしい」「もっと楽しく走れそう」などの言葉が子ども達から聞かれました。

また、稲刈りの時にも担任が「田植えの後、地域の方が一生懸命田んぼのお世話をしてくださったから、稲がこんなに大きくなって収穫できるんだよ。お世話をしてくださる人がいるからお米が食べられるんだね」と話しました。

折に触れ、お世話になった方々への感謝の気持ちを、子ども達に伝えるようにしています。今ある環境が当たり前ではなく、そこにはたくさんに人たちが関わってくださり、自分達の楽しい生活や活動があることを知ってほしいと思っています。そして、ゆくゆくは『自分一人で大きくなったわけではない』『たくさんの人たちに見守られ、支えられている』ことに感謝の気持ちを持ち、その気持ちを今度は他の人に広げてほしいと願っています。小さい子どもには難しいことですが、感謝の気持ちを押し付けるのではなく、その時々でわかりやすく繰り返し伝えていくことで、身につけていければいいと思います。